

受難節第 6 主日礼拝説教要旨(3 月 29 日)

『成し遂げられた』 ヨハネによる福音書 19:17-30 東出英幸牧会補助者

受難週の第一日目・棕櫚の主日を迎えました。今朝わたしたちが耳を傾けるヨハネ福音書の受難週にまつわる物語、特に十字架の物語には、旧約聖書からの引用が多く使われています。これは主イエスの十字架の物語が、旧約聖書の延長線上にあって「旧約聖書を完成するため」に必要なものなのです。本日の聖書箇所には、兵士たちが、主イエスから奪い取った衣服を「くじ」を引いて分け合う場面が描かれています。主イエスの十字架の下で繰り広げられる、この浅ましく賤しい人間の姿は、詩編 22:18-19 の記述が実現したものです。主イエスを目の前にしてもなお罪を重ねる人間の醜い姿をここに見ることができます。

次に、主イエスが十字架での苦しみを最後まで受け尽くして、全ての使命が成し遂げられたことを悟ると、ひとこと「渴く」と言われました。それは詩編 69:22 の『人はわたしに苦いものを食べさせようとし 渴くわたしに酢を飲ませようとしませう』という言葉が成就させるものでした。これは肉体的な渴きを指すだけでなく、神との断絶による霊的な渴きを指す言葉です。つまりこの瞬間、主イエスは私たちの霊的な渴きの一切を負って下さったと言えます。そして、兵士たちが差し出した酸い葡萄酒を主イエスは受け取られると『成し遂げられた』と言って息を引き取られました。この言葉は、罪への贖いが完全に成し遂げられた！という宣言にほかなりません。この言葉は、ギリシア語原文で『支払いが完了した (τετελεσται / テテレスタイ)』という単語で記されていて、本来は商取引のための用語です。それが『成し遂げられた』という意味で用いられていることに、神学的な奥深さを感じざることでしょう。

創世記の善悪の知識の木の出来事以来、神に逆らい罪を犯した人間は、「死」の代価を払ってきました。ところが、主イエス自らが「罪人」として十字架の上で身代わりとなり、私たちの支払いを既に成し遂げて下さったことで、今や私たちは自分の救いに確信が持てるようになりました。加えて、このお方を信じる信仰によって、私たちはもはや罪の奴隷でなくなったのです。主イエスがご自分の命を代価として支払い、私たちを罪と死と悪から買い戻して下さった！このことにより、私たちの罪は完全に赦されたのです。

しかし、神の「救いのご計画」は主イエスの死で終わったわけではありません。三日目に主イエスは「死」に勝利し、復活されます。そこに私たちは救いの根拠と共に、「希望」の根拠をも示されるのです。